

第172回くらしの植物苑観察会 2013年7月24日(土)

— 「沖縄の歌と植物」 —

内田 順子 (国立歴史民俗博物館研究部 民俗研究系准教授)

1990年代前半に大ヒットしたTHE BOOMの「島唄(しまうた)」をご存じのかたも多いかと思います。この楽曲は、デイゴが咲く季節を歌うことから始まります。デイゴは1967(昭和42)年、米軍統治下の琉球政府によって県花に選定されるなど、沖縄を代表する花として知られています。

では、デイゴの花がいつ咲くか、ご存じでしょうか。沖縄は亜熱帯海洋性気候に属し、年間の平均気温は約23度。とても暖かな地域です。歴博のある千葉県が春を迎える2、3月の頃、沖縄は早くも夏の兆しの季節をむかえます。この季節を沖縄のことばで「うりずん」、また、「若夏(わかなつ)」とも言います。うりずんをむかえると、デイゴが赤い花をつけます。

デイゴはマメ科の落葉高木で、沖縄ではディグ(首里)、ドゥフ(宮古)、ズグ(石垣)、八重山地域の歌の中ではアカヨラなどとも呼ばれます。THE BOOMの「島唄」は、デイゴの花が咲き乱れて、それが風を呼びやがて嵐がきた、と続きます。



デイゴの花

この部分は、作詞家によるオリジナルの発想ではないと思われます。というのは、デイゴの花がたくさん咲くと嵐がくる、あるいは干ばつになる、という伝承が沖縄に伝えられているからです。ここ佐倉と大きく気候が異なる

沖縄では、季節のうつろいを感じさせる植物も異なっていますし、それに基づく伝承もこのあたりで暮らす私たちには馴染みのないものが多いことでしょう。今回の観察会では、沖縄の古典音楽、わらべうた、民謡、神聖な祭祀で歌われる歌を紹介しながら、その中で歌われる植物をとりあげて、植物に関する沖縄独特の伝承、生活文化、また、メロディーから連想される花についてお話しします。

次回予告 第173回くらしの植物苑観察会 2013年8月24日(土)

「朝顔の名前からわかること」 仁田坂 英二(九州大学大学院)

10:00~12:00(予定) 苑内休憩所集合 申込不要